

令和3年度

町内会長等と市長との懇談会

ネット懇談会 実施報告書

郡山市



目次

◆ 町内会長等と市長との懇談会について	1	
◆ 東地区（令和3年10月26日）		
（1）田村	田村地区の防災への取組について	3
（2）西田	地域包括ケアシステムにおける第2層協議体について	5
（3）中田	火災予防活動や高齢者の健康づくり活動等による持続可能な地域づくりについて	7
（4）郡山中央（東）	緑ヶ丘地区における献血活動及び友愛訪問について	9
◆ 西地区（令和3年11月5日）		
（1）逢瀬	各種団体合同座談会について	11
（2）片平	ワクチン接種の進捗と事業再開について	13
（3）湖南	高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを安心して送ることができるための仕組みづくりについて	15
（4）郡山中央（西）	お互いの顔が見える町内会づくりについて	17
◆ 北地区（令和3年11月19日）		
（1）喜久田	喜久田駅東地区に係る地区計画作成に向けた取組について	19
（2）日和田	命を守る火災警報器の設置促進について	21
（3）富久山	富久山地区市民大運動会に係るアンケートについて	23
（4）熱海	熱海町地域振興協議会の取組について	25
（5）郡山中央（北）	「つなごう桃見台プロジェクト」の実施について	27
◆ 南地区（令和3年11月26日）		
（1）安積	ごみ収集はしっかりネットで総点検	29
（2）郡山中央（中）	橘地域の活動状況と今後の課題について	31
（3）三穂田	地域の力で支え合うための情報共有マップ作成について	33
（4）郡山中央（南）	町内会加入の促進「大切な町内会ぜひ加入して明るい毎日を」について	35

町内会長等と市長との懇談会について

1 開催の目的

市政情報の発信とともに町内会長等から地域の課題や提言をいただき、各施策に反映させることを目的に、市内を東西南北の4地区に分け、市役所（庁議室）と各行政センター等をウェブ会議システムで接続し、「ネット懇談会」を開催しました。

2 開催日・地区

開催回	開催日	開催地区	開催場所
第1回	令和3年10月26日	【東地区】 郡山中央（東）、田村、西田、中田	市役所庁議室、 中央公民館及び 各行政センター
第2回	令和3年11月5日	【西地区】 郡山中央（西）、逢瀬、片平、湖南	市役所庁議室、 大槻ふれあいセンター 及び各行政センター
第3回	令和3年11月19日	【北地区】 郡山中央（北）、喜久田、日和田、 富久山、熱海	市役所庁議室、 富田公民館及び 各行政センター
第4回	令和3年11月26日	【南地区】 郡山中央（南・中）、安積、三穂田	市役所庁議室、 中央公民館及び 各行政センター

3 参加者

町内会連合会長等、関係団体、市長、副市長、各部局長等、市議会議員（オブザーバー参加）



ネット懇談会の様子

4 懇談内容

各地区の取組説明、他地区及び市長等との意見交換（17件）

懇談テーマ 各地区における持続可能な地域づくり

本市は2019（令和元）年7月に、SDGsの達成に向け先導的な取り組みを目指す地方自治体として、国から「SDGs未来都市」に選ばれました。「健康」を中心とし、すべての世代の方たちが元気に過ごせるまちを目指し、SDGsの取組を推進しています。

“誰ひとり取り残さない”未来のために掲げられたSDGsの17の目標は、地域の皆様が町内会や各団体等においてあたりまえのように行っている活動とつながっています。参加者のみなさまからは、「持続可能な地域づくり」をともに考えるヒントとなるような活動や市内各地へと広げていけるさまざまな取組をご紹介いただきました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs（持続可能な開発目標）とは

Sustainable Development Goals の略で、

国連で決めた「2030年までに世界をより良くするための目標」です。

- ◆ 2015年に国連で採択された2016年から2030年までの国際目標です。
スローガンは“誰一人取り残さない（no one will be left behind）”
- ◆ 貧困、教育、気候変動、産業やジェンダーなど、17のゴールとそれぞれの下により具体的な169項目のターゲットがあります。
- ◆ 先進国も途上国もすべての国が関わって解決していく目標です。

田村地区

田村地区の防災への取組について

田村地区には、阿武隈川、谷田川、黒石川、徳定川などの河川があり、2019年の令和元年東日本台風(台風19号)、2021年7月の大雨により、河川、農地等への水害が発生しました。



令和元年東日本台風による被害状況

徳定町内会における活動

2019年の台風19号で被害の大きかった徳定町内会においては、地元消防団、子ども育成会、婦人会、老人クラブが協力し、水消火器による消火訓練、ビニール袋を利用した炊き出し訓練等を実施することにより各世代の防災意識を高めることができ、災害の際には集会所へ避難するとの意識付けができました。



徳定防災まつりの様子

谷田川行政区における活動

谷田川行政区においては、2019年の台風被害以降、「谷田川環境を守る会」が中心となり、谷田川地区を上、中、下の3地域に分け年間50回程度の活動を行っています。今年(2021年)7月の大雨の際には、小規模な被害箇所については行政センターからの資材交付を受け、住民が協力し合い応急復旧の対応を行いました。

今年度は、土砂災害警戒区域となっている谷田川、二瀬地区の各行政区長等に対して、土砂災害ハザードマップを改めて確認するよう連絡するとともに、対象地区の住民へ土砂災害に伴う避難指示等の対応について、啓発を行いたいと考えているところです。

田村地区においては、コロナの影響に加え、阿武隈川をはじめとした河川の改修など、大きな生活環境の変化が続いています。町内会として何ができるのか、何をすべきなのか、各区長、会長と相談し、行政とも連携・協力しながら、自助・互助・共助・公助を重ねつつ、持続可能な町内活動に取り組んでまいりたいと考えています。

意見交換



質問
郡山中央
(東)地区

- ・年間 50 回程度の活動については、どのようなことをしていますか。
- ・行政センターからはどのような資材が交付されていますか。



回答
田村地区

- ・用水路の法面の草刈りや大雨後の見回り点検を行っています。
- ・大きな修繕などは行政にお願いしていますが、ちょっとした土砂崩れなど、自分たちでできることは対応しています。
- ・行政センターからは杭をいただいて、それを使用して環境を守る会が土砂を埋めたりしています。

市からのコメント

<総務部>

- ・徳定防災まつりでは、各世代の方が参加しやすい工夫を凝らしながら防災意識を高めていること、谷田川行政区では、まさに「自分たちの地域は自分たちで守る」という共助の取組を積極的に行っていることを心強く思います。
- ・市から配布している「わが家の防災ハンドブック」では、コロナ禍を踏まえた分散避難（車中避難や垂直避難）等についてもまとめてあるので、ご活用をお願いします。

<建設交通部>

- ・土砂災害に対する備えや避難行動に役立てていただくため、「土砂災害ハザードマップ」を作成し、今年（2021年）3月に対象区域の皆様へ配布しました。
- ・「洪水ハザードマップ」についても、阿武隈川と逢瀬川のみだった洪水・浸水区域に谷田川、笹原川、藤田川、五百川が追加されることから、新たにハザードマップを作成する予定です。避難所等を改めてご確認いただき、避難行動に活かしていただくようお願いいたします。

<品川市長>

どうしたら自分たちで災害対策ができるか、ということで取り組んでいただけていると思います。これまでの体験や活動をお聞きして、市全体の課題として参考とさせていただきたいと思います。

SDGs・セーフコミュニティ

◇ 地域防災の取組



住み続けられるまちづくりを



気候変動に具体的な対策を



◇ 各団体の参加による徳定防災まつり

◇ 市との協働による谷田川の環境を守る会の活動



パートナーシップで目標を達成しよう



防災・環境安全対策

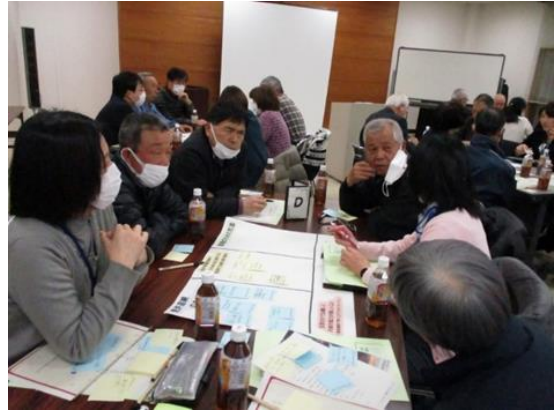
西田地区

地域包括ケアシステムにおける第2層協議体について

西田地区では 2019 年 9 月に第 2 層協議体を立ち上げ、本協議体の活動テーマである「高齢者が安心して免許返納できる地域づくり」の実現のため活動しています。

地域における有償ボランティアの養成

今年度（2021 年度）は、テーマに向けた地域づくりの一環として、買い物支援やごみ出しなどの日常生活の助け合い活動を有償で行う有償ボ



第 2 層協議体 会議の様子（2020 年 2 月）

ランティアを養成する「助っ人隊養成講座」を実施したところ、56 名が受講し、助け合い活動（互助）やボランティアについて考えてもらう機会をつくることができました。

今後は、これまで活用してきた乗合タクシーの利用拡大や有償ボランティアの活用などとともに、地域の活動として何ができるかを話し合い考えてまいります。

健康づくりの活動について

これまで「いきいき百歳体操」や西田町オリジナルの体操を実施し、介護予防や健康づくりに努めてきたところですが、更なる活動の充実を図ってまいります。

また、ウィズコロナ・ポストコロナやDXを見据えたオンライン診療などによる地域医療の確保など、地域住民の利便性を図るとともに、セーフコミュニティ及び「誰一人取り残さない」SDGs の基本理念や地域での支え合いの精神の下、1 人でも多くの高齢者が元気で、安心して暮らせるまちづくりを進めるため、地域で話し合っています。



助っ人隊養成講座の様子



西田オリジナル体操「棒体操」の様子

意見交換



質問

田村地区

・有償ボランティアの事故等への対応の仕方、ボランティアの料金、車両の取扱いについて教えてください。



回答

西田地区

・社会福祉協議会でマッチングしている事業で、10分100円でご利用いただくものです。車両については、何かあった場合はボランティアの方ご自身の保険で対応していただくようお願いしています。

市からのコメント

<保健福祉部>

- ・第2層協議体は、2021年10月現在、市内32地区で設置していただいています。
- ・西田地区では2019年9月に設置し、積極的に活動していただき感謝申し上げます。今後も積極的な地域活動に期待するとともに、皆様と一緒に課題解決に努めてまいります。

<市民部>

- ・いきいき百歳体操などで、自分で自分の身体を保つ「自助」の取組、また地域でボランティア精神が豊かな方が多いということと社会福祉協議会と連携して、有償ボランティアという仕組みとして「共助」に取り組んでいるということの好事例であると感じます。

<建設交通部>

- ・地域の公共交通の確保のため、路線バスが廃止された地区において、2019年6月から自宅から利用できるデマンド型の乗合タクシーを導入しています。
- ・西田地区においては2020年10月から導入しており、2021年9月までの1年間で延べ2,501名の方にご利用いただいています。今後においても、ご意見を伺いながら利便性の向上に努めてまいります。

<品川市長>

いきいき百歳体操について、大変重要な活動だと思います。また、体を動かしながら人助けをすることで、自分の健康にもつながると思いますので、参考とさせていただきます。

SDGs・セーフコミュニティ

- ◇ いきいき百歳体操や西田オリジナル体操の取組



すべての人に健康と福祉を

- ◇ 社会福祉協議会との協働による第2層協議体の取組
- ◇ 高齢者が安心して免許返納できる地域づくり



住み続けられるまちづくりを



パートナーシップで目標を達成しよう

- ◇ 有償ボランティア育成の取組



働きがいも経済成長も



交通安全対策
高齢者の安全対策

中田地区

火災予防活動や高齢者の健康づくり活動等による 持続可能な地域づくりについて

住宅用火災警報器の設置調査

中田地域振興協議会は、昨年度(2020年度)から、「中田地区から住宅火災による犠牲者を絶対に出さない」との理念のもと、消防中田分署や消防団中田地区隊、行政センターとの協同連携により、中田町の住宅用火災警報器設置状況全戸調査ローラー作戦(1,264世帯を対象)



住宅用火災警報器設置調査の様子

を実施しました。この調査実施に伴い、普及啓発活動も併せて行った結果、設置率が84.7%と全国(82.3%)や郡山市平均(78.6%)を上回る結果となりました。

○住宅用火災警報器設置調査

懇談会開催後の2021年11月14日には再調査として、前回調査時に未設置だった約200世帯への訪問調査を行いました。

高齢者の健康づくり活動等



いきいき百歳体操の様子

中田町は高齢化率が40%と高く、高齢者の健康づくりは最重要です。いきいき百歳体操の活動が積極的に進められており、昨年度までは7団体だったところ、現在では11団体へ活動団体が増えています。さらに活動の輪を広げようと、コロナ対策を徹底しながら活動しています。



配食サービスの様子



また、中田地区では例年、年6回、一人暮らしの高齢者へ地元のボランティアによる配食サービスが行われており、いろいろな趣向を凝らしながら手作りの食事を配っているという特色があります。

今後においても、中田地区の「住民同士のつながりが強い」という特色を活かし、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を持ちながら、防災活動や高齢者の健康づくり、ボランティア活動など、継続した地域活動を進めてまいります。

意見交換



質問
西田地区

- ・住宅用火災警報器の電池切れや故障など、今後の維持管理活動について考えていますか。
- ・いきいき百歳体操の団体が7団体から11団体へ増えていて素晴らしいと思います。

- ・住宅用火災警報器については、設置義務や交換時期等の説明をしながらチラシを配布しています。
- ・いきいき百歳体操は地域の皆様に好評で、口コミで活動団体が広がってきました。

回答

中田地区

市からのコメント

<総務部>

- ・コロナ禍で集まりにくく地域コミュニティの希薄化が懸念される中、地域一丸となつての防災意識の向上や「自分たちの地域は自分たちで守る」という共助意識が表れた取組であると思います。
- ・コロナ禍ということも加えた防災、減災の取組にも一層取り組んでいただければと思います。

<保健福祉部>

- ・配食サービスについては、有志の方によりいろいろと工夫いただいていると感じました。
- ・新型コロナウイルスの対策に気を付けながら、市内の福祉活動がより活発に行われるよう、社会福祉協議会や民生委員の方々とともに取り組んでいきたいと思っておりますので、今後もよろしくお願いします。

<品川市長>

これらの活動はセーフコミュニティの模範的活動であると思います。住宅用火災警報器の設置率が全国平均を上回っているということですので、消防とともに参考とさせていただきます。

SDGs・セーフコミュニティ

◇ 配食サービスの取組



飢餓を
ゼロに

◇ いきいき百歳体操の取組



すべての人に
健康と福祉を

◇ 消防署や消防団との協同連携による

住宅用火災警報器の設置調査



住み続けられる
まちづくりを



パートナーシップで
目標を達成しよう



防災・環境安全対策
高齢者の安全対策



郡山中央（東）地区

緑ヶ丘地区における献血活動及び友愛訪問について

献血活動について

緑ヶ丘地区町内会連合会は緑ヶ丘地区献血協力会主催のもと、保健委員会、民生委員協議会、社会福祉協議会、防災連絡協議会、夏祭り実行委員会の各種団体と協力し献血活動を毎年行っています。



献血活動の様子

町内会広報により事前に参加者を募り、緑ヶ丘地域公民館を使用して行われた2020年度の献血活動では、地区内15町内会会員など77名の方から協力をいただくことができました。献血活動の実施にあたっては、広報誌の活用等が献血者数の確保に大いに役立ったと考えています。

○緑ヶ丘地区献血協力会

2018年5月22日に緑ヶ丘地区の各種団体の協力により設立し、同年7月28日の第1回献血活動以降、これまでに6回の献血活動を実施しています。

友愛訪問について

社会福祉協議会緑ヶ丘支部では、コロナ禍で町内の高齢者の皆さんと食事会・茶話会等が行えない状況の中、訪問活動をどのように行うかという課題がありました。

そこで、訪問先の高齢者の皆さんに安心していただけるよう、始めに「訪問事前連絡書」を届け、当日は福祉委員を中心に今回は各町内会長にも同行いただき、十分な感染症対策を講じたうえで、緑ヶ丘地区内で一定の年齢条件等を満たした高齢者宅150世帯を訪問し生活用品をお届けしました。

今回、町内会長にも同行いただいたことで、町内における高齢者宅の実態把握にもつながり、安心安全な地域づくりへの一歩となりました。



友愛訪問の様子

意見交換



質問

中田地区

- ・献血者が減少している中、血液の確保に取り組み実績を上げていることについて、敬意を表したいと思います。
- ・献血者を増やしていく取組について、アドバイスを頂ければと思います。

- ・いろいろな方への呼びかけを行っていますが、今回一番効果が出たのは、夏祭りの実行委員への呼びかけでした。主に40代の方に実行委員に入っていたのですが、その中から18名にご協力いただきました。
- ・そのほか、青少年健全育成協議会や中学校のPTAに声をかけたりと、いろいろな工夫をしています。



回答

郡山中央
(東)地区

市からのコメント

<保健福祉部>

- ・毎年70名以上の方が献血に足を運んでいただいております。献血者確保のためにいろいろと工夫をされているということでしたので、今後ご苦勞をお掛けすると思いますが、献血事業にご協力をお願いします。

<品川市長>

献血活動については、社会貢献であるとともに、献血の際には問診があることから自分の健康チェックにも役立つと思います。市内、さらには広域圏にも広めていきたいと思っております。

SDGs・セーフコミュニティ

◇ 献血活動



すべての人に
健康と福祉を



◇ 社会福祉協議会との協働による友愛訪問の取組

◇ 高齢者宅の実態把握による安全安心な地域づくり



貧困を
なくそう



住み続けられる
まちづくりを



飢餓を
ゼロに



パートナーシップで
目標を達成しよう

高齢者の安全対策

逢瀬地区

各種団体合同座談会について

各種団体合同座談会について

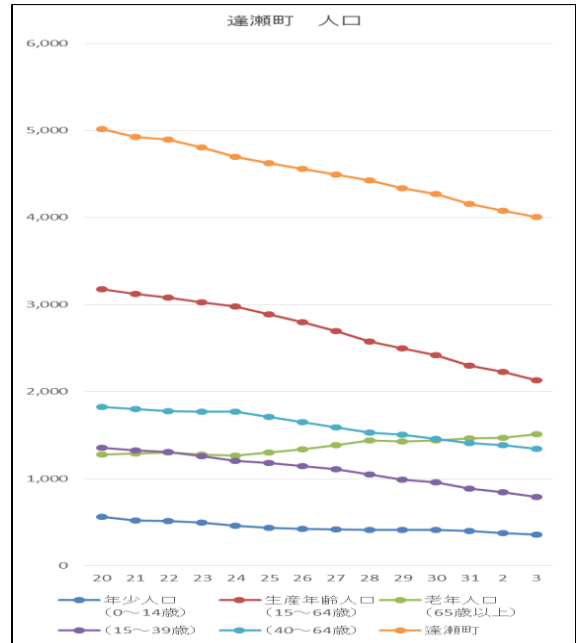
逢瀬町では、住民の減少や高齢化率の上昇が進んでおり、各団体において今までのような活動の継続が難しくなっています。

新型コロナウイルス収束後の活動や地域行事の再開を見据え、区長会、公民館と各種団体が一体となって地区の問題点等を情報共有するとともに、「町の在り方」や「団体の活動内容・方向性」について、座談会としてざくばらんに話し合っていきたいと考えています。

「チャレンジ47」事業について

新型コロナウイルスの影響で昨年（2020年）から各種活動の中止が続いていますが、昨年は、各種団体の協力を得て、「ステイホーム」の中で心身両面の健康を維持するため、一日一日、目標を持って楽しみながら出来る「チャレンジ47」という事業を行いました。

これは、毎日の目標を設定し、達成した日は県庁所在地を塗りつぶし、最短47日間で全国行脚をするというもので、リーフレットを2種類（一般向け、高齢者向け）作成しました。リーフレットには抽選券を付け、参加応募者に記念品を贈呈しました。



「チャレンジ47」リーフレット

意見交換



・町内会活動を運営する中で、皆さん同じ気持ちで活動していることと思います。お互いに協力し合って、よりよい町内会活動ができるよう、取り組んでいきたいと思っています。



・「チャレンジ 47」に参加した方からの感想等がありましたら教えてください。

・参加者からの感想では、体操はもちろんのこと、頭を使う 50 マス計算が楽しかったという声をいただきました。
・チームやグループでの参加が少なかったことが反省点です。



市からのコメント

<教育総務部>

- ・新型コロナウイルス感染症が流行している中、「できない」ではなく「では何をしよう」といった取組を続けられていることに敬意を表します。
- ・今後も支援に努めてまいりますので、これらの取組を他地域の方にも広げていただきますようお願いいたします。

<市民部>

- ・子どもからお年寄りまでさまざまな団体が情報を共有し、問題を一つにすることが、今回の「チャレンジ 47」へとつながっているかと思えます。
- ・今後もこのような一つの共通する取組を持ちながら、地域の活性化、つながりの強化に努めていただければと思います。

<品川市長>

逢瀬町の年代別のグラフ（高齢化）について、この傾向を前提としていろいろと対応していかなければならないと思いますので、各地区での活動の参考とさせていただきます。

SDGs・セーフコミュニティ

◇ 各種団体の協力により、心身両面の健康を維持するために実施した「チャレンジ 47」事業



すべての人に健康と福祉を



パートナーシップで目標を達成しよう



住み続けられるまちづくりを



高齢者の安全対策



片平地区

ワクチン接種の進捗と事業再開について

片平地区においては、市内における新型コロナウイルスの感染拡大や、8月・9月のまん延防止等重点措置に伴って、昨年度（2020年度）に引き続き今年度（2021年度）も町内の全ての団体が活動を自粛し、ほとんどの事業を中止しています。

うねめ供養祭・かめ祭りの開催

郡山の夏の風物詩で、今年で57回目となるうねめまつりも、踊り流し等は中止となりましたが、片平町の一大行事である『うねめ供養祭・かめ祭り』については、昔からの伝統を後世に残したいという思いから、コロナの感染拡大に配慮し、三密回避、マスク着用、検温・消毒の実施、そして関係者のみの少人数による開催などの感染防止対策を徹底したうえで、8月5日の夕刻に執り行いました。



地域活動再開に向けた情報共有について

そのような状況の中、市内においては新型コロナウイルス対策としてのワクチン接種が進んでおり、9月に開催された定例市議会では、2回目のワクチン接種率はその時点で52%であり、11月末までには市民の約8割が2回目の接種を終える見込みであるとの答弁がありました。しかしながら、それは郡山市全体の数値であり、地区ごとの接種率等の公表はないので、片平町においてどれくらいの方が2回目のワクチン接種を終えているのかがまったくわかりません。

町民に対するワクチン接種が進むことによって、現在、町内の全団体で縮小あるいは中止している事業を、ブレークスルー感染に十分配慮しながら順次再開することができるものと考えているので、“誰ひとり取り残さない”未来のために掲げられたSDGsの17の目標の1つでもある、住み続けられるまちづくり、持続可能な地域づくりを推進していくためにも、ワクチン接種の状況が把握できるよう、地区ごとの接種率の公表を要望します。

意見交換

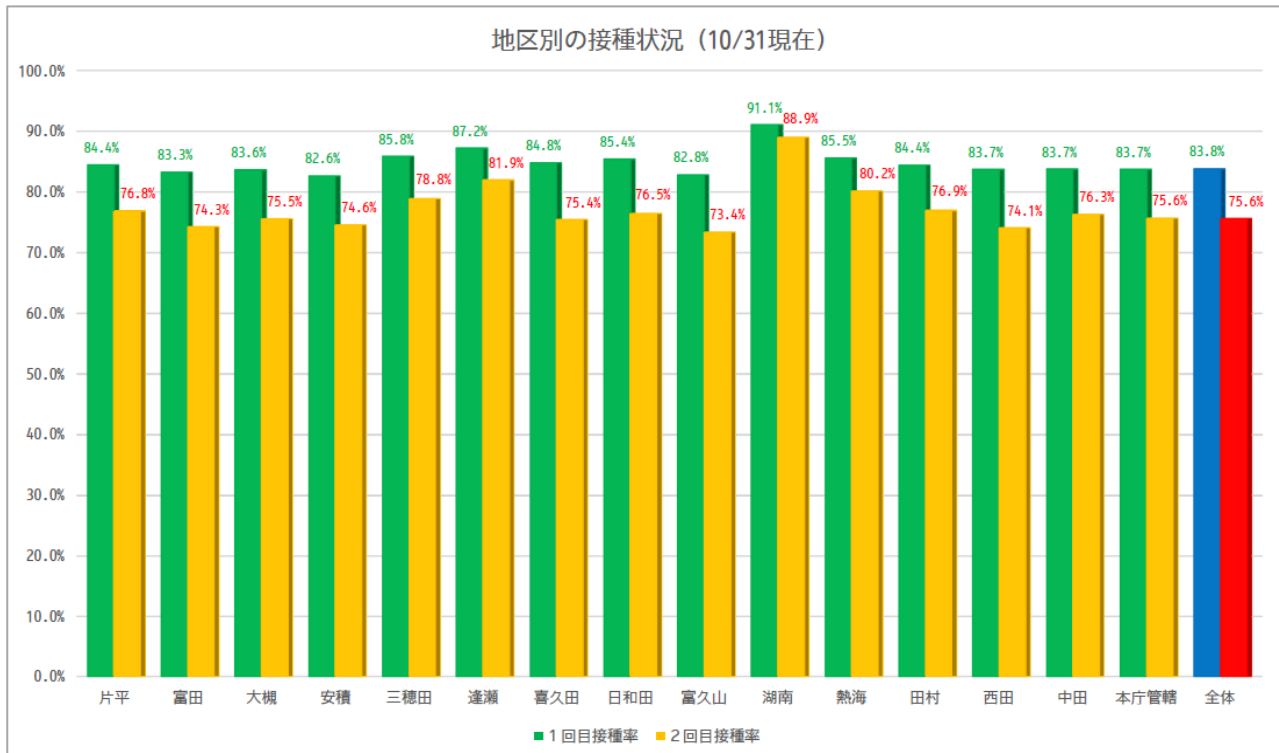
市からのコメント

<保健福祉部>

- ・2021年10月31日現在で、市全体としては83.8%の方が1回目の接種を、75.6%が2回目の接種を終えているところですが、片平地区の接種率は市内平均を上回っています。
- ・ワクチン接種をしても感染する可能性はありますので、今後も引き続き感染防止にご注意いただき地域活動を行っていただくようお願いします。

<品川市長>

来年は皆様の思いがかなう「うねめまつり」となるよう、市の役割を果たしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



SDGs・セーフコミュニティ

◇ コロナ禍でも「新しい生活様式」で実施した「うねめ供養祭・かめ祭り」



住み続けられるまちづくりを



◇ 地域活動再開へ向けた情報共有



パートナーシップで目標を達成しよう

湖南地区

高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを安心して送ることができるための仕組みづくりについて

第2層協議体の立ち上げについて

湖南町区長会では、高齢化が著しく進展している湖南地区において優先的に取り組むことは、「高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを安心して送ることができるための仕組みづくり」であると話し合いました。



支え合いマップ作成の様子

公助や共助ではカバーできない部分については、自助・互助による取組が必要となることから、その取組を模索する場として、各区において「第2層協議体」の組織に向けた検討を進めるとの認識を共有しました。

今後、各地区における第2層協議体立ち上げに当たっては、社会福祉協議会の「生活支援コーディネーター」の支援が求められますが、新型コロナウイルス感染防止の観点により会合等の開催が難しいことから、当面は各地区において第2層協議体の立ち上げに向けた調査・研究を行うこととしました。



中野ささえあい通信

中野地区の取組について

湖南地域における第2層協議体の先行事例としては、2019年8月25日に中野地区で勉強会を開催し、「協議体」を設置し、生活支援コーディネーターの支援のもと、構成員により地域住民が共に支え合うための「支え合いマップ」を作成するなどの活動を行っていました。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、活動が制限されることとなりましたが、引き続き生活支援コーディネーターの支援のもと、「支え合い」が必要な地域のニーズの把握に努める等、可能な範囲で活動を継続しています。

意見交換



質問

片平地区

・支え合いマップへどのような情報を掲載しているのか、また、マップをどのように活用しているのかを教えてください。



回答

湖南地区

・地図上で70歳以上の方がどこに住んでいるかわかるように、年代別の世帯状況を地図に表示しました。
 ・まだマップの活用には至っていないため、今後、コロナ禍が落ち着いたら活用に向けて動きたいと思います。

市からのコメント

<保健福祉部>

- ・第2層協議体はこれまで市内32か所で設置いただいておりますが、湖南地区では中野地区で先行的に設置し、活動に取り組んでいただいております。
- ・地域の特性によりさまざまな課題がありますが、それを地域の皆さまで支え合いながら解決していただくのが第2層協議体です。この互助のシステムを効果的に機能させられるよう、市としても公助の役割を果たしてまいります。

<品川市長>

2020年の国勢調査で3世代同居の割合が5割を切りました。隣近所といっても、お一人お一人が強く、また「お互いに理解し合って地域で助け合っていく」ということにならざるを得ないということを感じているところです。

SDGs・セーフコミュニティ

◇ 地域住民が共に支えあうための
「支え合いマップ」の作成



すべての人に
健康と福祉を



住み続けられる
まちづくりを



◇ 各団体の参加による第2層協議体の
取組



パートナーシップで
目標を達成しよう



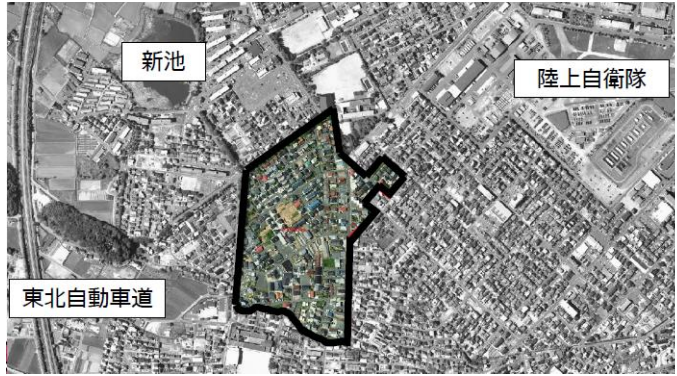
高齢者の安全対策

郡山中央（西）地区

お互いの顔が見える町内会づくりについて

町内会役員や班長への消火器の配布について

大槻町の御花畑町内会（225世帯）では、10班の班長と11人の役員に町内会から消火器を配布しています。地域でのご近所付き合いが少なくなっていく中、班長には地域のまとめ役の一端を担っていただきたいとの考えから、1998（平成10）年頃に消火器の配布を始めました。



御花畑町内会の区域



配布している消火器

町内会の区域を確認し、「自分の班や隣近所で火災が発生したら、この消火器を持って駆けつける」と思うことで、班長の地域への意識も変わってきていると思います。

大槻中央地区町内会連合会では、38 町内会と各団体の参加による「市民安全会議」において地域の防災活動に取り組んでいますが、「自助・共助・公助」に加え「ご近助」による助け合いの一環として、今後も町内会での防災活動に取り組んでまいります。

お互いの顔が見える町内会活動について

御花畑町内会では高齢化社会への対応として福祉部会を設置し、コロナ前には高齢者支援のために「つどいの場」という会を開いていました。年に2・3回、風船バレーなどの高齢者でも安全にできる運動やクイズを行ったり、軽食を食べながら交流を深めたりと、毎回企画を変えて参加者に楽しんでいただいていたいました。

このほかには、女性部による活動や、若手の町内会員が集まりやすいソフトボール部の活動などに町内会から助成をし、町内会員がお互いに顔見知りになれるような町内会づくりに取り組んでいます。

コロナ禍においては、町内会活動の縮小により「絆」が半減しています。いざという時に助け合うためにも、今後も「お互いの顔が見える町内会」を作っていけるよう、「新しい生活様式」の中でさまざまな活動に取り組んでまいります。

意見交換



湖南地区

- ・消火器の配布などの防災活動、高齢者支援等について、参考とさせていただきたいと思います。

市からのコメント

<総務部>

- ・自助を核とした「自分たちの地域は自分たちで守る」という共助意識が地域に浸透していると感じました。
- ・災害時には情報伝達が極めて重要となります。本市においても今年（2021年）5月に「わが家の防災ハンドブック」を作成し、コロナ禍での対応などもわかりやすく記載しているので、ぜひご近所による助け合いの一環としてご活用ください。

<市民部>

- ・ご近所の中で顔が見える取組を町内会で広げていくということは非常に有効であると思いますので、このような取組を各地区でも参考にさせていただければと思います。
- ・これから高齢化がますます進んでいく中、ご近所のパワーを発揮していただいて町内会づくりに取り組んでいただければと思います。

<品川市長>

地域全体で力をつけていこうという上で非常に地道な、しかし、なくてはならない活動に「自分たちがやらなくてはならない」ということで動いていただいていると思います。

SDGs・セーフコミュニティ

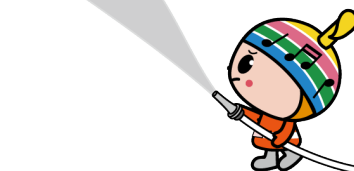
◇ 班長等への消火器配布による町内会員の安全・安心につながる町内会活動



貧困をなくそう



住み続けられるまちづくりを



◇ 各種団体の参加による「市民安全会議」の取組



パートナーシップで目標を達成しよう



防災・環境安全対策
高齢者の安全対策

喜久田地区

喜久田駅東地区に係る地区計画作成に向けた取組について

喜久田町の未来を考える会での地域課題の検討

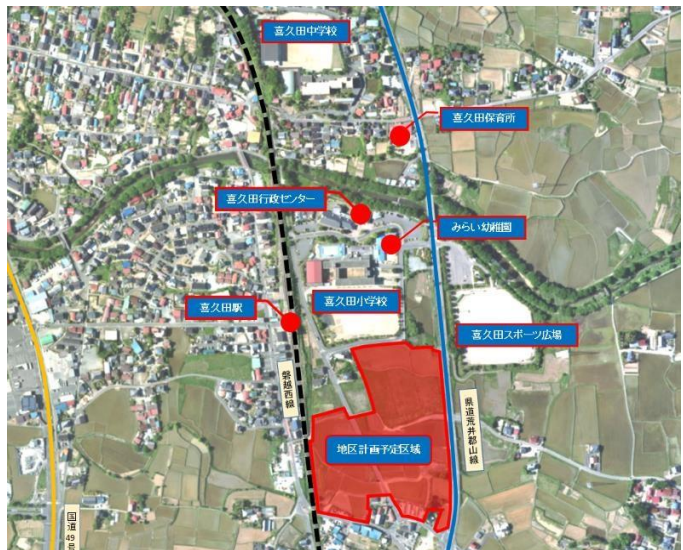
喜久田町は、「古くからの地域」と区画整理や住宅地の開発により急速に発展した「新しい地域」により構成されています。「古くからの地域」には、小中学校、行政センター、駅などの公共・公益施設が集中しているものの、高齢化が進み空き家も散見されます。

このような中、管内の各種団体で構成する「喜久田町の未来を考える会」を2019年3月に設立し、人口減少や少子高齢化に伴う地域コミュニティの衰退等地域課題の解決へ向けた取組について検討を進めてきました。

喜久田駅東地区の地区計画作成に向けた取組

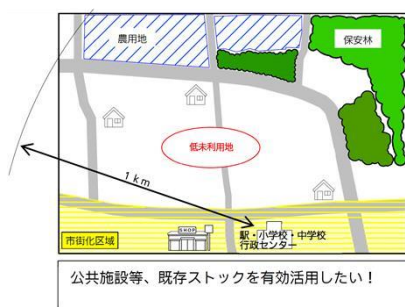
その具体策として、子育て世代で新たな定住者の増加を促進するため、都市計画の手法である地区計画制度を活用することとなり、喜久田駅東地区を選定し、地区計画申請に係る勉強会や関係機関との協議を重ねてきました。

その結果、今年（2021年）7月には、市に事前相談書を提出したところです。この取組は、喜久田町の「古くからの地域」と「新しい地域」のそれぞれの特性を活かしながら活気・賑わいのあるまち



地区計画（予定）区域

を目指す大変重要なものです。今後、地区計画作成に向けた提案書提出等に係る手続きが円滑に進むよう、引き続き助言・指導等、ご支援をお願いします。



地区計画を
策定すると



既存 ストック有効活用型
(市街化区域隣接・拠点活用型)

意見交換



質問
郡山中央
(北)地区

・非常に長いスパンの計画だと思うのですが、計画完了まで何年かかるのかという見込みを教えてください。



回答
喜久田地区

・提案書については設計者といろいろな協議をしながら進めており、今年（2021年）12月に地域の方に説明予定です。地権者の方からは100%の同意をいただいています。

<補足：都市整備部>

- ・現在は地区計画案を作成いただいているところですが、計画案の決定までに時間がかかり、その後工事が始まります。
- ・地元の皆さまと事業者で進めていただく事業ですので、市で何年と明言できないものですが、大体3～4年かかるのではないかと見込んでいます。

市からのコメント

<品川市長>

地図を見ると計画地区のすぐ近くに小・中学校、幼稚園、スポーツ広場などあります。駅の入口は反対側ですが、県道も通っているので、今の車社会を考えると、子育て世帯の方に住んでいただけるととても便利な地域であると思います。

市としてもスムーズに計画が進められるようサポートしてまいりますので、地権者の方々と積極的に協議を進めていただきたいと思います。

SDGs・セーフコミュニティ

◇ 各種団体による「喜久田町の未来を考える会」の地区計画作成へ向けた取組



11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナースイップで
目標を達成しよう



日和田地区

命を守る火災警報器の設置促進について

消防法の改正に伴い、2011年6月1日から、すべての住宅において住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

しかし、日和田町の住宅用火災警報器の設置率は、2021年6月現在 68.2%であり、総務省発表の全国平均設置率の 83.1%を大きく下回っていました。

2019年2月5日夜、郡山市において、逃げ遅れた一家4人が亡くなるという痛ましい住宅火災が発生しました。



個別訪問の様子

住宅用火災警報器は、火災の初期段階で煙を感知して鳴動し、寝ている住人を起こすことにより逃げ遅れを防ぐものです。

住宅用火災警報器の全戸設置調査

2020年9月、中田町において、地元機関が合同で住宅用火災警報器の設置調査を開始したとの新聞報道があり、日和田町町内会長協議会においても、逃げ遅れによる火災の犠

牲者を出さないためには、住宅用火災警報器の設置促進が急務であるとの認識に立ち、日和田行政センターとの協奏事業として、町内全戸の設置調査を実施することとしました。

2020年12月から設置調査を開始し、新型コロナウイルス感染症の拡大により一時中断を余儀なくされましたが、2021年11月に再開しました。

訪問調査においては、未設置の世帯へは警報器の有効性の説明及び消防法に基づく設置義務への理解を求め、設置済の世帯へは設置場所の適否確認及び日常の点検方法を説明するなど、住宅用火災警報器の設置促進並びに適切な管理の推奨に努めています。

重要なお知らせ

消防法改正に伴い、平成23年6月1日からすべての住宅において住宅用火災警報器の設置が義務化されました。
しかしながら、日和田町の住宅用火災警報器の設置率は全国平均や福島県平均を大きく下回っております。

日和田町設置率	68.2%
全国平均設置率	83.1%
福島県平均設置率	78.9%

令和3年6月現在 郡山消防本部調べ

一昨年2月夜、郡山市昭和一丁目にて一家四人の方が亡くなった住宅火災においては、火災警報器が未設置で逃げ遅れた可能性があるとの報道がありました。
逃げ遅れによる犠牲者を出さないためにも、住宅用火災警報器の設置と、設置済みの場合は作動確認をお願いします。

日和田町町内会長協議会 郡山消防署日和田分署
郡山市消防団日和田地区隊 郡山市日和田行政センター
《裏面もご覧ください》

個別訪問時に配布したチラシ

意見交換



質問

喜久田地区

- ・訪問調査で改めて「これがよかった」ということを教えてください。
- ・喜久田地区は2年前に調査しました。大変でしたが、地域での火災に対する意識がレベルアップし、調査して良かったと感じました。



日和田地区

- ・現時点での訪問はまだ85戸ですが、そのうち設置は61戸、未設置は24戸、設置率は71.7%でした。
- ・調査してみたの感想は、皆さん意外と無関心だったというものです。新しい家は警報器が付いているものの「大事なもの」という認識が低いようでした。高齢者世帯の中には「これが役に立つのか？」という方もいました。
- ・これから訪問を重ねて、本当に大事なものだということをわかっていただくようにしていきたいです。

市からのコメント

<品川市長>

市長になって以来、亡くなられた方や自宅を失った方などに直面し、胸が痛む思いをしてきました。火災の原因はさまざまですが、万が一の火災が起きたとき、火災警報器があるのとないのでは大分違います。

セーフコミュニティ運動の中に火災防止があるので、セーフコミュニティ運動の一環として、行政センター単位などで「火災ゼロ（無火災）〇日」といったものをお知らせし、情報を共有できればいいのではないかと思います。

SDGs・セーフコミュニティ

◇ 行政センターとの協奏による住宅用火災警報器の設置促進



住み続けられる
まちづくりを



パートナーシップで
目標を達成しよう



防災・環境安全対策



富久山地区

富久山地区市民大運動会に係るアンケートについて



富久山地区市民大運動会の様子

運動会開催の見直しについて

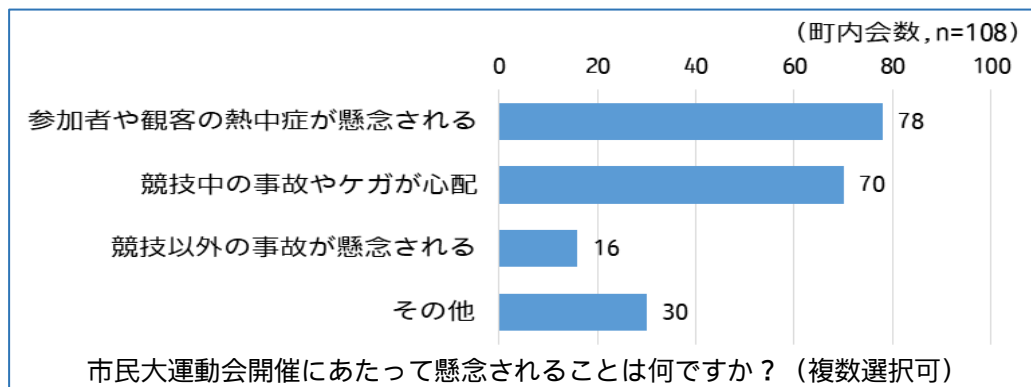
新型コロナウイルス感染症予防のため、2020年度及び2021年度の富久山地区市民大運動会を中止としたところです。地区の市民運動会については、以前から熱中症や競技中の怪我や事故等を懸念する声が多々寄せられるようになっていました。また、準備段階

から開催にかけて協力いただく各町内会役員の負担が非常に大きいため、開催の見直しを求める意見も上がっていました。

これらのことから、来年度（2022年度）以降の地区市民運動会の開催等について検討するため、富久山地区内の121町内会を対象としたアンケートを実施し、108町内会から回答をいただきました。

運動会開催に係るアンケートの結果

アンケートの集計結果をみると、回答については、「コロナ禍が収束しても運動会は開催すべきでない」との回答が82%を占めており、全体的な意見として熱中症や競技中の事故・怪我の発生が心配されることや、町内会役員への大きな負担、特に選手や開催準備の担い手を探すことが困難であるといった意見がとても多いものでした。



運動会の開催運営が困難となってきた背景には、町内会加入率の減少や、数字としては表していませんが、町内会加入世帯の高齢化などがアンケートの回答状況から読み取れます。アンケート結果を踏まえ、今後、来年度以降の地区市民運動会の開催について協議・検討していきたいと考えています。

意見交換



質問

日和田地区

- ・ 8割を超える方が運動会の開催是非に「いいえ」を選択されたことについて、どのように考えますか。
- ・ アンケートの自由意見としてはどのようなものがありましたか。



回答

富久山地区

- ・ 「いいえ」が多くなるのでは、と想定していましたが、8割を超えたことは想定以上でした。多くの町内会から会員数の減少や構成員の高齢化といった声をいただき、改めて少子高齢化の現状を感じています。
- ・ 自由意見としては、「開催時期の見直し」、「パラリンピックなどを参考にした競技種目の見直し」といった意見がありました。
- ・ 開催是非に「いいえ」を選んだ回答では、「地区住民が運動会に興味を示さない」、「全体的に高齢化が進んでおり参加者が集まらない」といった意見が多くありました。

市からのコメント

<品川市長>

私も運動会に参加していますが、役員の方は大変だと思います。運動会に限らず、みんなが主催者となるような共催型での実施という考えもあると思いますので、工夫をしていければよいのかなと思います。

また、災害時に協力し合える地域となるためにも、行事での交流が必要であると思います。

SDGs・セーフコミュニティ

◇ 地球温暖化による熱中症を考慮した地域行事の見直し



気候変動に
具体的な対策を



防災・環境安全対策



◇ 各町内会へのアンケートによる地区市民大運動会の開催検討



住み続けられる
まちづくりを



パートナーシップで
目標を達成しよう

熱海地区

熱海町地域振興協議会の取組について

熱海町地域振興協議会について

熱海町地域振興協議会は、行政区長会、温泉観光協会、旅館協同組合、商工会等の代表者で構成されています。

この協議会は、地域住民及び各種団体の代表者で構成されている強みを活かし「ほっとあたま（熱海多目的交流施設）」の開設時には、地域のコンセンサスを取りまとめるなどの役割を果たしてまいりました。

○熱海町地域振興協議会

設立：2006（平成 18）年 9 月

目的：熱海地区をより住みやすく交流の活発な街とするため、住民及び各種団体の声を時宜に代表し、もって町政の進展と日常生活の安寧に資すること。

構成団体：旅館、商工、福祉、交通等 18 団体の代表者

「銚子ヶ滝」の視察について

今年度（2021 年度）の活動としては、9 月 14 日に 18 名で「銚子ヶ滝」の視察を行いました。視察の目的は、銚子ヶ滝への遊歩道について、各団体の立場で気づいた点を確認し、市に提案することでしたが、市の観光課の職員にも同行してもらい、案内矢印の表示方法など、現在の状況を共有することができました。

今後も SDGs の 17 の目標を念頭に、構成する各種団体の活動の応援も含め、熱海町地域はもちろんのこと、熱海町以外のすべての地域・世代の方たちが元気に楽しく過ごせるまちを目指し、持続可能な地域づくりに取り組んでまいります。



銚子ヶ滝



銚子ヶ滝の視察の様子

意見交換



質問

富久山地区

・熱海町地域振興協議会の過去の活動内容や今後の計画について教えてください。

・これまでは、けやきの森の散策についての新たなルート整備の提案や、お祭りの支援などを行ってきました。
・今後は、熱海町管内の小学校の健全な運営についても協議し支援していきたいと考えています。



回答

熱海地区

市からのコメント

<品川市長>

車社会の中、郡山市に限らずボーダーレスに周辺地域とつながっていくことで熱海町の魅力が発見されたり、やることが見つかったりすると思いますので、そのようなことを視野に入れていただければと思います。また、その仲立ちはお手伝いをさせていただきたいと思いますので、ご提案をお待ちしています。

SDGs・セーフコミュニティ

◇ 銚子ヶ滝への遊歩道の視察による
持続可能な観光業の促進



8

働きがいも
経済成長も

働きがいも
経済成長も

◇ 各種団体等の参加による熱海町地域振興協議会の取組

◇ 熱海町地域振興協議会と市の協働による視察



11

住み続けられる
まちづくりを

住み続けられる
まちづくりを



17

パートナーシップで
目標を達成しよう

パートナーシップで
目標を達成しよう

郡山中央（北）地区

「つなごう桃見台プロジェクト」の実施について

桃見台地域では、コロナ禍でもできることとして、ご家庭に眠っている食料品等の「もったいない」を必要としている人に届けて「ありがとう」に変える取組を実施しました。

桃見台方部町内会連合会が主催し、社会福祉協議会、民生児童委員協議会、明るいまちづくり推進委員会、保健委員会、青少年健全育成地区協議会の共催により行いました。

各団体等と連携し、説明などの準備に2か月ほどかけて実施し、地域の方の協力により寄贈された品物は、2,801点となりました。



つなごう桃見台プロジェクトの様子

プロジェクトの経過（2021年）

1. 2月8日 市社協と事業実施について相談、協議
2. 2月21日～28日 チラシ、通知を作成
3. 3月3日 民生委員定例会で協力依頼について説明
4. 3月19日 社会福祉協議会桃見台支部役員会で説明
5. 4月1日～2日 物品受付
6. 4月7日 寄贈された物品の一部を地域の方に民生委員を通してお届け
7. 4月12日 郡山市社会福祉協議会へ寄贈品を引渡し



プロジェクトのチラシ

意見交換



質問

熱海地区

- ・各団体と連携されているとのことですが、協力者の人数を教えてください。
- ・寄贈されたもののうち、多かったものを教えてください。

- ・6団体の協力で、常時40名程度の方が動き、品物の受入・名前の記入・仕分けなどを行いました。食品の賞味期限のチェックには特に気を付けました。
- ・寄附品で一番多かったものは、インスタント食品です。カップ麺、乾麺、カレー等のレトルト商品などがありました。それから米、缶詰、コーヒーや紅茶等もありました。その他、学用品も受け入れました。



回答

郡山中央
(北)地区

市からのコメント

<品川市長>

みんなが思いながらもなかなかできないことを実行していただき、感謝とともに敬意を表したいと思います。

他地区でやってみたいという方もいると思いますし、個人・NPO等でこのような活動をされている方も市内に何か所かあります。どのようなサポートが必要なのか、研究させていただきたいと思います。

SDGs・セーフコミュニティ

◇ 必要としている方への食料品等の配布



貧困をなくそう



飢餓をゼロに

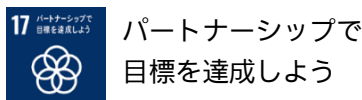


◇ プロジェクトの実施による食品ロスの減少



つくる責任
つかう責任

◇ 町内会連合会と各種団体等によるプロジェクトの実施



パートナーシップで
目標を達成しよう

安積地区

ごみ収集はしっかりネットで総点検

「我がまち」安積町自治会長会の主な課題は、町内会未加入世帯が多いことと、ごみ集積所の問題です。この二つの問題には関連性があり、以前から住民の方の中には、高齢者も含めて各種団体には関わりたくないという方や、アパート全体で町内会に加入していない方がいます。町内会未加入者の中には「集積所は誰が捨てても持っていつてくれる」と、回収曜日や時間に関係なく自分勝手に集積所にごみを出す方もいて、町内の美化を乱しているところが多くあります。いかに町内の環境美化を図り、ごみの排出量を減らしていくかが自治会の大きな課題となっています。

ごみ集積所の視察点検について

安積町(30 町内会)にはごみ集積所が多数あり、その管理状態については場所によって様々で、町内会だけで把握することは困難な状況です。そのため、安積町自治会長会では、数年前から安積地区保健委員会と連携を図り、各町内会のごみ集積所の視察点検を実施しています。

保健委員会の環境浄化部では、ごみ集積所の鳥獣被害軽減のため、限られた予算の中からカラス除けネットを毎年配布しています。町内会からは、ごみ集積所の乱雑さを防ぐ手立てになっているとの声もいただいていることから、今後もネットの配布を継続しながら、地域の環境美化とごみ減量化などの啓発活動に努め、ごみのない明るい安積町の実現に向けて尽力してまいります。

なお、安積町にはごみ集積所を設けていないアパートがあり、加えて町内会に加入していない方も多いため、未加入世帯が多いアパート等の集合住宅に対しては、管理会社や所有者に適正なごみ出しをするよう働きかけを強化したいと考えているところです。市長におかれましても、更なる町内会加入の促進と集合住宅へのごみ集積所の設置を義務付けるなどの対策をお願いいたします。



ごみ集積所点検の様子

意見交換



意見
郡山中央
(南)地区

- ・ごみの問題は町内会の一番の課題だと思います。保健委員会と連携した取組は素晴らしいと思うので、参考として取り組んでいきたいです。
- ・新しいアパートなどへの対策は、不動産業の方と相談しながら進めていけば前進すると思います。

- ・町内会に加入していない世帯の理由の一つとしては、単身世帯が多いということがあります。紹介していただいた不動産業との連携は大変参考になりますので、今後取り組んでいきたいと思っています。



回答
安積地区

市からのコメント

<市民部>

- ・市としては郡山市自治会連合会、不動産業2団体と町内会加入促進に関する協定を結び、チラシを配布するなどの支援をしているところです。
- ・町内会加入に向けた好事例を各町内会から伺っていますので、市民・NPO活動推進課にお問合せいただければと思います。

<環境部>

- ・ごみ出しの曜日や時間が守られず困っているということについては、3R推進課にご相談ください。町内会の皆さまと一緒に対応いたします。例えば、ゴミ出しのルールを守られない方が判明した際には、直接指導といった対応もしています。
- ・市から集合住宅への集積所設置義務付けについては課題がありますが、アパートについては、町内会の皆様とともに管理会社に申し入れをして改善していただいたという事例もありますので、遠慮なく相談していただければと思います。

<品川市長>

評価が良かった町内会がどのようなことをして集積所の環境が良くなっているのか、知恵の交換を安積地区内でしていただき、それを市内に広めていただければと思います。その際にはまたこのネット懇談会の場を使っていただければと思います。

SDGs・セーフコミュニティ

◇ 関係団体との連携によるごみ集積所の視察点検



住み続けられる
まちづくりを



パートナーシップで
目標を達成しよう



郡山中央（中）地区

橘地域の活動状況と今後の課題について

活動の枠組み - 橘地域公民館区町会長連絡協議会

橘地域では「橘地域公民館区町会長連絡協議会」を設置しています。南部地区・橘方部・三中地区の3地区町内会連合会の24町内会・自治会と橘地域公民館で構成されており、協議会が人材、資金を「明るいまちづくり推進委員会」に提供し、活動を支えているというものです。そのほか、地域には次のような各種団体があります。

- ・クラブ連絡協議会・地区社協・地区保健委員会・地区防災会・民生児童委員協議会
- ・交通安全協会・防犯協会・交通安全母の会・橘小学校・第三中学校

課題

活動の上では、組織の継続が課題となっています。役員の高齢化、担い手不足、子どもの減少（子供会の休止）などがあり、町内会長が不在となっている町内会も出ています。

このような中、各種団体はそれぞれ独立した組織ではありますが、担い手は同じような顔ぶれになっています。各団体が独立している理由としては、補助金等の窓口が部門ごとに分かれていることが上げられ、将来的には改善の余地があるのではないかと思います。

活動事例



お祭り広場の様子

○地域の先輩や歴代の公民館館長の提案で多くの活動を立上げ継続

<子どもたちを対象とした活動>

- ・学校の学習サポート派遣 ・下校時見守り
- ・親子ハイキング ・父の日プレゼントづくり
- ・夏休みスクール ・お祭り広場 ・運動会
- ・少年の主張 ・オセロ大会 ・クリスマス会
- ・書初め ・餅つき大会 ・仲良く遊ぼう

○百歳体操の立上げ

地域の高齢者の見守りにもつなげるため、力を入れています。昨年からは橘地区保健委員会主催で『百歳体操』を企画実施し、今年、南部地区の町内会（南阿弥陀町内会）で独自に立上げました。さらに、中央公民館堤下分室を利用して堤下地域の町内会でも立上げを計画しています。



百歳体操の様子

意見交換



質問

安積地区

・橋地区では年に何回の会議を開催していますか。また、会費や活動内容について教えてください。



回答

郡山中央
(中)地区

・連絡協議会は年4回開催しており、地域からの会費として約15万円と企業等からの協賛金として約60~70万円で活動しています。
・行事については年間で十数件あり、明るいまちづくり推進委員会がメインとなり活動を行っています。

市からのコメント

<教育総務部>

・公民館は地域の方が結びつき、地域づくりを行う場です。この場を活用してゆるい結びつきを作り、そこから担い手づくりにつなげていくお手伝いをできると思います。
・今後も皆様の地域づくり、地域を担う人づくりのために公民館を活動の拠点として活用いただき、館長・職員と協働いただくようお願いします。

<保健福祉部>

・百歳体操は2021年11月現在、131か所で活動していただき、約2,400人に参加していただいています。
・いきいき体操の他に、口腔嚥下機能の維持向上のための「かみかみ体操」、認知症予防の頭を使った「シャキシャキ体操」があり、この3つを合わせて活動しているところが74か所あります。ぜひ、かみかみ体操、シャキシャキ体操も活動のひとつに加えていただければと思います。

<品川市長>

各組織の役員を兼務されている方が多いのかなと思います。市役所でも組織改編や所管替えを行っていますので、各会との協力関係や再編についてご検討される際には市でご相談に応じさせていただきます。また、少年の主張では、地域について児童・生徒がどのように考えているのかを聞いてみるのも良いと思います。

SDGs・セーフコミュニティ

◇ いきいき百歳体操の取組



すべての人に
健康と福祉を

◇ 学校の学習サポート派遣や夏休みスクールの実施



質の高い教育を
みんなに

◇ 橋地域公民館区町会長連絡協議会の取組と

明るいまちづくり推進委員会への協力による活動



パートナーシップで
目標を達成しよう



こどもの安全対策
高齢者の安全対策



三穂田地区

地域ので支え合うための情報共有マップ作成について

情報共有マップの作成

三穂田町 12 地区の情報共有マップ作成の目的は、近年の異常気象や新型コロナウイルス感染拡大など、予期できないことが今後起きる可能性があることから、区長会を核に各種団体のメンバーから情報を収集し、見える化することです。

マップに地区の危険箇所・一人暮らしの高齢者や障がい者・空き家などの情報を集約することにより、自分の住んでいる地域を見つめなおすことができ、日常の見守りや災害時に住民同士で支え合い、つながり合う地域活動が可能となります。

現在、12 地区の全 43 班分全てのマップ作成が完了しており、集約中です。



情報共有マップ作成の様子

情報共有マップの活用

今後は、情報共有マップを最大限に活用して、三穂田町にお住まいの方々が安心・安全な生活ができ、生命の危険を未然に防ぐ取組を積極的に実施していきたいと思っています。

今回の情報共有マップ作成にあたり、参加者の方々から「自分の住んでいる地域について年々高齢者が増えている現状を再認識・把握することができた」「地域を見直す良い機会となり、マップは定期的に更新することが大切だ」との意見がありました。人と人とのつながりを一層高めながら、寄り添い合うまちづくりに努めてまいりたいと思います。



情報共有マップ

意見交換

市からのコメント

<保健福祉部>

- ・第2層協議体については、2021年11月18日現在で33の協議体を立ち上げていただいています。
- ・三穂田地区では、もともと地域活動に取り組まれていた「三穂田カフェ」を母体に2019年7月にスタートしたとのことですが、防災の意識が非常に高かったと伺っています。
- ・マップは可視化され、非常にわかりやすく活動しやすいツールになると感じます。市から毎年配布している避難行動要支援者名簿とマップを有効に活用していただき、もしも時の住民の方の安全確保に取り組んでいただきたいと思います。

<市民部>

- ・高齢者、空き家、危険個所などを記したマップを作る取組は、まさに「地域で自らの安全を守る」、そのための見える化として好事例であると感じます。地図を作ることによって、それぞれが持っている情報を共有化して地域の情報とされていること、その地図により新たな課題や対応すべき問題が見えてくるのではないかと思います。
- ・市でもセーフコミュニティ活動として高齢者の安全や防犯・防災、子どもの見守りなどさまざまな取組があります。随時相談をお受けしますので、よろしくをお願いします。

<品川市長>

きめ細かく情報共有マップを作成されていると思います。今後、災害時の避難では消防や行政が間に合わないということもあり得ますし、防災に関して、行政はサービスからサポートへとシフトしていることもあるので、避難について市民の皆さまが自主的に動いていただく上では、このような地図は非常にありがたいと思います。

SDGs・セーフコミュニティ

◇ 各種団体からの情報を集約したマップを活用した安心・安全なまちづくり



すべての人に
健康と福祉を



住み続けられる
まちづくりを



パートナーシップで
目標を達成しよう



高齢者の安全対策

郡山中央（南）地区

町内会加入の促進 「大切な町内会ぜひ加入して明るい毎日を」について

町内会未加入者が多いということは、どこの町内会でも課題であると思います。理由は「会費」「行事への参加」など様々で、中には「町内会に入らなくても困らない」という人もいます。しかし、町内会未加入者も町内会のごみ集積所にごみ出しをしている実情があり、ルールが守られていないことが多く見受けられます。

このようなことから、「針生第三町内会」では様々な町内会加入促進活動を行っています。

町内会未加入者への加入促進活動

各班長・組長が未加入者（借家）への声掛け・町内会加入チラシの配布をして勧誘活動を進め、併せて次のような町内会の役割についてPRを行ってきました。

- ・環境美化（清掃活動等）
- ・防犯・防災（防犯パトロール等）
- ・親睦・交流会（運動会・芋煮会等）
- ・情報の伝達（広報紙の配布等）
- ・安全安心（子ども・高齢者支援等）
- ・問題の提起・解決（地域で発生する課題等）

育成会への働きかけ

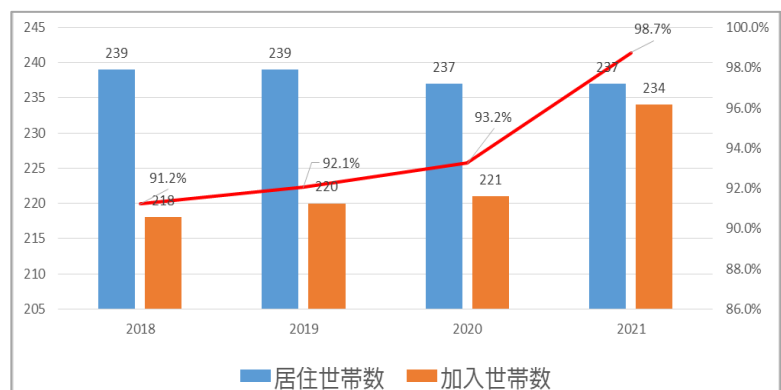
保護者の皆さんへ次のような【育成会と町内会の繋がり】をPRしました。育成会活動等への町内会会員の協力について説明し、加入促進に結びつける事ができました。

- ・資源物回収（町内会会員の協力）
- ・地域子ども見守り隊（登校時の見守り）
- ・青少年健全育成推進協議会（町内会より助成金）
- ・育成会総会の打合せ等（公民館使用時の協力）

また、郡山市自治会連合会と不動産業団体との町内会への加入促進に関する協定もあつてか、不動産会社からの問い合わせがあり、加入促進が図られています。

これらの活動が功を奏し、2018年度の加入率91.2%から2021年度には加入率98.7%へと、大幅に加入率が向上しました。

今後もこれらのことをPRしながら、近所付き合いの中で地域交流を図り、町内会活動を行っていききたいと思います。



針生第三町内会 町内会加入率の推移

意見交換



- ・町内会加入については、どこの地区でも同じ問題として共感されるのではないかと思います。
- ・三穂田地区でも支え合いマップ作成の中で、3%が町内会未加入であることがわかり、今後は加入100%に近づけていこうということを課題としているので、取組内容は大変参考になりました。

市からのコメント

<市民部>

- ・郡山市自治会連合会の加入促進チラシや不動産業からの協力を活用されているということですが、これらの取組の有効性を示していただけだと思います。
- ・保護者の方に町内会の活動を知っていただくという取組について、加入に協力的でない方に声掛けをすることにはご苦労があると思います。
- ・市としてもご紹介いただきました事例を他の地区でも参考としていただけるよう横展開に努めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

<品川市長>

町内会加入促進について、住民の方が納得のいく働きかけをされたのだと思いますので、ぜひ他の町内会と共有していただきたいと思います。

SDGs・セーフコミュニティ

◇ 役員総出の町内会加入促進活動



住み続けられる
まちづくりを



こどもの安全対策
高齢者の安全対策
防犯対策



◇ 福島県宅建協会、全日本不動産協会との連携による町内会加入促進



パートナーシップで
目標を達成しよう